# リバルエン®LAパッチ
# 認知症 Monthly WEBセミナー

**日時**

## 2026年 2月 17日 (火)
## 19:00 ～ 20:00

**追っかけ再生あり** ※21時までに視聴開始した方に限り、お好きな個所からご覧いただけます。

**座長**

**宮尾 眞一 先生**
名鉄病院 認知症疾患医療センター長

## 貼付剤使用時の皮膚症状対策とスキンケア
### -貼付剤を上手につかうための7つの極意-

**演者**

**江藤 隆史 先生**
あたご皮フ科 副院長
東京逓信病院 皮膚科 客員部長

## 進化するアルツハイマー病治療
### ～リバルエン®LAパッチの活用法～

**演者**

**井門 ゆかり 先生**
井門ゆかり脳神経内科クリニック 院長

**下記視聴予約URL又は二次元コードより事前お申込みの上、ご視聴ください。**

https://re.m3dc.live/towayakuhin20260217

視聴登録いただいた先生方へ弊社MRが訪問させていただくことがあります。
ご提供いただきました個人情報は、ご視聴いただいた先生の確認のほか、
今後のセミナー・イベント、弊社製品に関するご案内のために使用します。
個人情報は、業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。
個人情報は、弊社の個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に管理いたします。

**主催 ： 東和薬品株式会社**

■講演要旨■

## 貼付剤使用時の皮膚症状対策とスキンケア
-貼付剤を上手につかうための7つの極意-

江藤 隆史 先生（あたご皮フ科 副院長/東京逓信病院皮膚科客員部長）

貼付剤は、皮膚に貼り付けて用いるため、皮膚症状対策が重要です。接触皮膚炎に注意すべきですが、アレルギー性と刺激性の区別が重要といえます。刺激性の場合は、適切なスキンケアを行うことで予防できます。乾燥肌傾向の強い高齢者では、症状が出やすいので、貼付部位の選択やスキンケアの工夫が極めて重要です。多少赤くなっても、薬剤の特性で出る刺激反応なら、貼付継続を諦める必要はありません。高齢者の皮膚は、萎縮傾向でもあります。剥がし方が雑な場合、皮膚のダメージも進行し、刺激反応が出やすくなるでしょう。出てしまった刺激反応は、強めのランクのステロイド外用薬で早く治すのもこつといえます。

## 進化するアルツハイマー病治療
～リバルエン®LAパッチの活用法～

井門 ゆかり 先生（井門ゆかり脳神経内科クリニック 院長）

アルツハイマー型認知症の治療薬であるリバスチグミンは、アセチルコリンエステラーゼだけでなくブチリルコリンエステラーゼも阻害するデュアル作用という特徴を持ちます。リバルエン®LAパッチは、リバスチグミンの持続放出性貼付剤のため、血中濃度がより安定し、副作用としての消化器症状や興奮性も軽減することが期待されます。また、剥がせば３時間程度で血中濃度が半減するという点も安心感があります。週２回の貼付のため、介護者（家庭・施設）の負担が軽減し、デイサービス利用等により独居者にも導入可能という利点があります。当日は、実際的な症例を通じて、リバルエン®LAパッチの有効性を考えます。

お問合せ先　東和薬品株式会社 営業本部 営業戦略統括部 営業企画部 営業推進課
eigyousuishin@towayakuhin.co.jp

2026.1(DC-006125)